

事業所名

児童発達支援事業所 まはろのめ

支援プログラム

作成日

令和8 年

8 月

10 日

事業所理念		好きなことで、ミライをつくる。 好きなものの、そばで生きてく。		
支援方針		■利用者本人の「好き」を軸に、活動に向き合う支援。 ■経験重視のプログラムで、「好き」に出会えるきっかけをもたらす支援。 ■利用者との信頼構築を基盤に、受容と肯定がまんなかの支援。		
営業時間		■9:30～15:30	送迎実施の有無	有
		支 援 内 容		
本人支援	健康・生活	■排泄リズムへの支援や歯磨き・身なり・食事サポート等基本的生活習慣への支援。 ■健全な生活リズムへの助言や日常の健康管理、他機関での環境変化や精神的な健康への配慮と支援・環境調整。 ■利用者が自身の健康状態に目をむけ、変化を感じうったえられるような支援。		
	運動・感覚	■食事の場面での支援で、操作・香り・味・色彩・温度など、感覚器官の発達を促す。 ■一人ひとりの発達段階や身体機能に応じて粗大運動・微細運動を取り入れた個別プログラムの実施。 ■走る・跳ぶ・バランスをとるなど粗大運動/つまむ・握る・操作するなどの微細運動を通して手指の巧緻性や目と手の協応動作の発達を育てるプログラムの実施。		
	認知・行動	■視覚的な手がかり(スケジュール表・絵カード・写真等)を活用し、活動の流れや次に行うことが分かるようにすることで見通しをもって行動できる力を育てる。 ■活動の始まりと終わりを明確にし、気持ちの切り替え・行動の移行ができるよう支援。 ■「止まる・待つ・避ける」など基本的な危険回避を繰り返しの経験の中で身につけられるよう支援。		
	言語 コミュニケーション	■日常生活や遊びの中で意思表出の機会を意図的に設定。 ■個々の特性に応じて視覚支援や環境調整を行い、意思表出ができるよう配慮。 ■職員が仲立ちとなり、人と人とのやり取りへとつなげ、相互の関わりを経験できるよう支援。		
	人間関係 社会性	■安心できる大人との関わりを基盤に、他者と関わる心地よさを感じられるよう支援。 ■安心できる環境で、好きな遊びや活動に主体的に参加できるよう支援。 ■個々のペースや特性に応じて役割や参加方法を調整し、成功体験が得られるよう支援。		
家族支援		■親子の愛着形成・関係への助言やヒアリング ■障害に対する療育的アプローチの提案や助言 ■日常での困りごとへの意見傾聴	移行支援	■保育所等を併行利用している場合における併用利用先との連携 ■ライフステージの転換期を見据え、将来の移行に繋げる支援 ■習得した行動を園や学校、家庭などで同様の行動ができるように般化を目指した支援
地域支援・地域連携		■関係機関連携や担当者会議等への積極的な参加・提案・企画 ■医療機関との連携や、他施設との交流	職員の質の向上	■外部研修・事業所内研修の実施 ■外部開催各種研修への積極的な参加 ■PDCAサイクルをまわすミーティング構造のマニュアル化
主な行事等		■季節感にふれるイベント/食育に関するイベント/外出イベント/誕生日イベント 等		